

天童市水道 通水 1 0 0 周年 記念講演会



令和 7 年 9 月 2 1 日 (日)
天童市市民プラザ 3 階多目的ホール

天童市上下水道事業所

天童市水道通水 1 0 0 周年記念講演会

次 第

司会 2025ミス日本「水の天使」 高坂 実優 氏

1 開 会

2 挨 拶 天童市長 新関 茂

3 祝 辞 山形県知事 吉村 美栄子 様
天童市議会議長 遠藤 敬知 様

4 表 彰 式 水道通水 1 0 0 周年ポスターコンクール
上下水道図画習字展

5 水道通水 1 0 0 周年のあゆみ紹介

6 記念講演 「持続可能な水道について」
水ジャーナリスト・武蔵野大学客員教授
橋本 淳司 氏

7 「高嶺の水」利活用構想中間発表 東北芸術工科大学

8 閉 会

講師の紹介

氏名

橋本 淳司 氏

役職・職業

水ジャーナリスト

武蔵野大学客員教授

活動等

中国での節水教育担当者育成プロジェクト、インドでの雨水活用コミュニティづくりなど、国内外で地域の水問題を解決するためのファシリテーター、チームビルディングのためのコーディネーターを行う。文部科学省指定のスーパーグローバルハイスクール、ワールド・ワード・ラーニングコンソーシアム拠点校において、探究学習や「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのカリキュラムと教材を作成し、授業をプロデュースするとともに、自らも授業を行っている。

メディア出演

- ・NHK「所さん！大変ですよ」
 - ・BS-TBS「報道1930」
 - ・NHK「NHKジャーナル」
 - ・日本テレビ「news zero」
- などのほか多数のメディアに出演されました。



司会者の紹介

氏名

高坂 実優 氏

役職・職業

2025ミス日本「水の天使」

大学生

活動等

一般社団法人ミス日本協会が主催する第57回ミス日本コンテスト2025で、ミス日本「水の天使」を受賞。日本全国の上下水道事業に関するイベント、水に関する国際会議への参加等を通じ、世界に誇る日本の水の知恵と文化を伝える、水の広報官・外交官のような役割を担っている。



天童市水道 100 年の歩み

弘化3年(1846年)	館林藩高掬陣屋が高掬地内に水道を敷設
明治22年(1889年)	町村制の施行により天童町が発足
大正13年(1924年)	天童町の水道事業経営が認可される
大正14年(1925年)	荒谷水源地を設置。天童町の水道通水開始(天童町・津山村温泉地区へ給水)
昭和22年(1947年)	GHQからの要請による天童駅前から温泉通りにかけての新管埋設工事が完了
昭和25年(1950年)	第1次拡張事業。城山配水池を設置
昭和29年(1954年)	天童町と成生・蔵増・寺津・津山・山口・田麦野村が合併し新天童町誕生
昭和32年(1957年)	第2次拡張事業。成生・蔵増・寺津地域を給水区域に編入。久野本水源地を設置
昭和33年(1958年)	市制施行、天童町が天童市となる
昭和37年(1962年)	天童市と豊栄村(高掬・干布・荒谷)が合併
昭和41年(1966年)	干布・荒谷地域を給水区域とした東部簡易水道開始
昭和43年(1968年)	第3次拡張事業。山元・山口地域を給水区域に編入。舞鶴配水池を設置
昭和47年(1972年)	高掬水源地を設置
昭和54年(1979年)	第4次拡張事業。市街地の人口急増に対応するため更なる水源施設を整備
昭和57年(1982年)	第5次拡張事業。八幡山配水池を設置。新開・荻野戸配水池を設置し、東部簡易水道を統合
昭和59年(1984年)	村山広域水道からの受水を一部開始
平成3年(1991年)	村山広域水道からの受水を本格的に開始
平成8年(1996年)	城山配水池を廃止
平成12年(2000年)	荒谷水源地及び久野本水源地を廃止
平成13年(2001年)	第6次拡張事業。給水人口の増加に対応するため給水区域を拡大
平成20年(2008年)	田麦野地域に水道が通水
平成24年(2012年)	上下水道事業所が開所。八幡山第2配水池を設置。舞鶴配水池を廃止。高掬水源地を廃止
平成25年(2013年)	大雨により市内全域で断水が発生し、市災害対策本部が設置される
平成26年(2014年)	非常用水源として高掬水源地を再稼働可能状態へ整備

出典 ふるさと思い出写真集 明治大正昭和 天童(柊国書刊行会)

参考資料 天童町の水道(村山正市著)

高掬上水道180年のあゆみ(村山正市著)

天童市上下水道事業所

〒994-0013

天童市老野森一丁目3番25号

天童市水道通水 100 周年のあらまし

水道が通る前、旧天童町の大部分では生活用水の多くを井戸水に頼っていましたが、井戸水の湧出量は極めて少なく、特に旧天童町の中央部は水質も悪く、雨期には濁水ばかりで飲料には適さない状態でした。

こうした状況を受け、当時の天童町長西澤定吉氏は、良質な水に恵まれていなかった旧天童町と温泉地域を給水区域とする水道事業に着手しました。大正13年に旧天童町の水道事業経営の認可、大正14年には、旧荒谷水源地を設置し旧天童町への水道通水を開始したのでした。

戦後の復興期から高度経済成長期には、人口の急増と共に水道網が飛躍的に拡充されました。

本市においても、町村合併などにより、昭和32年の第2次拡張事業時点で計画給水人口が2万2千600人であったものが、昭和43年の第3次拡張事業では4万人と大幅に増加し、新たな水源地の設置が進められました。昭和57年に認可された第5次拡張事業では、村山広域水道からの県水受水に備え、八幡山配水池の築造が行われ、現在継続している第6次拡張事業では、計画給水人口を6万7千人とし現在に至っています。

このように旧天童町から始まった本市の水道は、時代の変遷と共に普及・発展を続けてきました。



▲現在の旧荒谷水源地
平成12年に廃止となった。



▲水源地送水管埋設工事
写真正面奥の山は、山寺。荒谷水源地から水を引く管を埋設している。

高掬の水道

弘化2年（1845年）、当時の山形藩主秋元氏が上野国（群馬県）館林藩（10万石）へ移封された際、高掬村以下11か村が新たに館林藩領となり、以前からの旧領25か村と合わせて4万6千石あまりの領地が、明治の廃藩まで館林藩の羽州領（いわゆる飛び地）となりました。

弘化3年（1846年）から嘉永元年（1848年）にかけて高掬と漆山の2か所に飛び地を支配するための陣屋が設けられ、陣屋建設と同時に、高掬村では甘清水の湧水を地下に敷設した木管を通して陣屋まで引き入れ、村内4か所にも分水し、陣屋と村民の飲用水としていました。

嘉永2年（1849年）、漆山陣屋へ統合するため高掬陣屋が廃止されましたが、高掬の水道は引き続き館林藩士と村民のために使われました。明治に入り廃藩置県により山形県が設置され、館林藩の羽州領も山形県管轄となり、家臣たちが館林に引き揚げることになった際、水道は高掬村へ払下げとなりました。その後は高掬村が水道を経営することとなり、明治43年（1910年）から明治44年（1911年）にかけて鉄管に改装されました。昭和37年（1962年）、天童市と豊栄村が合併し、高掬の水道は天童市が経営を引き継ぐことになりました。

そして、昭和47年（1972年）に高掬水源地が設置され、八幡山第2配水池が竣工した平成24年（2012年）まで常時稼働していました。

現在は、非常用水源として、いつでも稼働できる状態に維持管理され、飲用水として必要な水質検査と施設の更新が定期的に行われています。



現在の高掬水源地
現在は、非常用水源として緊急時にいつでも稼働できるよう維持管理されている。